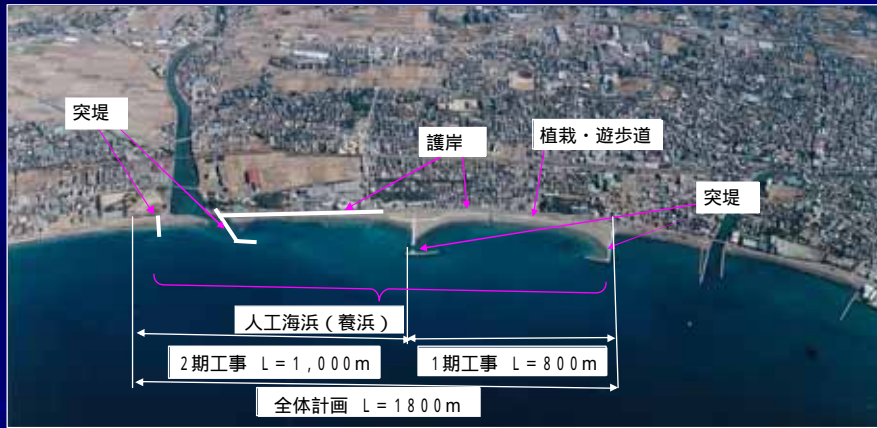


- ・ 箇所名 館山地区
- ・ 事業所管課 港湾課
- ・ 事業主体 千葉県
- ・ 事業化年度 平成 5 年度
- ・ 工事着手年度 平成 6 年度
- ・ 工事終了年度 平成 2 9 年度
- ・ 再評価の理由 再評価実施後一定期間
5 年が経過している事業

館山港海岸の利用状況

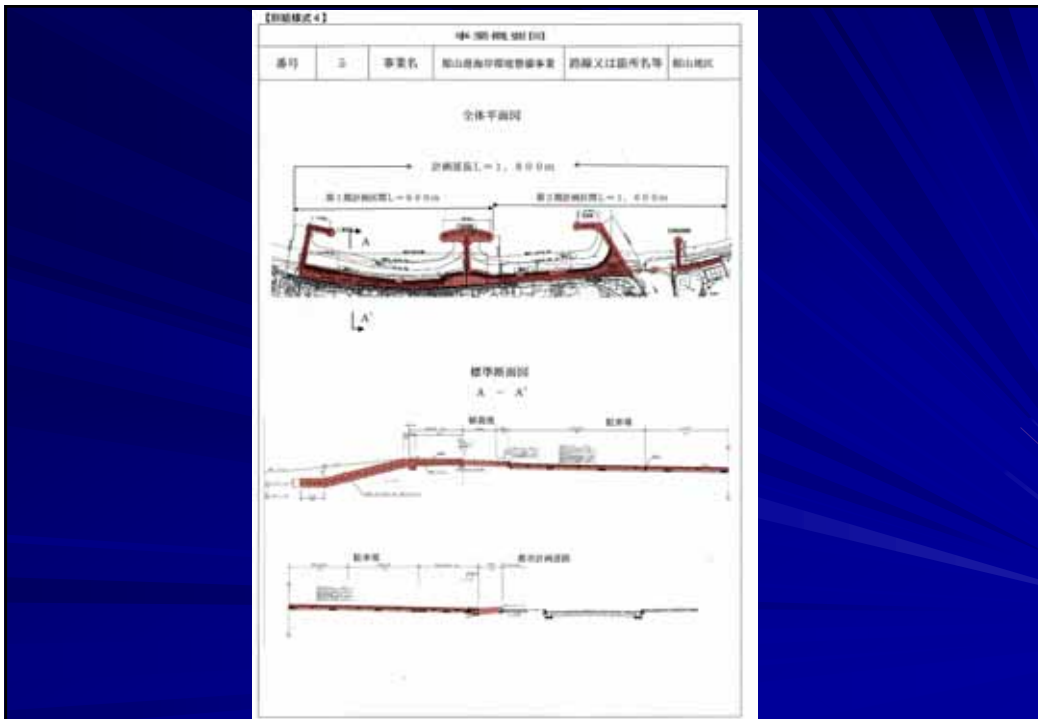


館山港海岸(海岸環境整備)事業対象施設



全体事業費	78.0億円
投資済事業費	20.4億円
残事業費	57.6億円

突堤	4基
護岸	1,580m
人工海浜(養浜)	50,000m ²
植栽	21,430m ²
遊歩道	19,270m ²



海岸環境整備事業における便益の算定

< 対象便益 >

浸水防護便益

高潮による浸水から背後地の資産を守ることによる便益。

「浸水防護便益」= 高潮による被害額

一般資産等被害額（家屋・家庭用品・事業所資産）

公共土木施設被害額（橋梁・道路・公園等）

公益事業等被害額（電気・ガス・水道等）

海岸利用便益

レクリエーション等の利用維持・向上効果を生じさせる便益。

「海岸利用便益」= 旅行費用法による消費者余剰

館山港海岸館山地区 防護区域図



海岸利用便益(旅行費用法)

■ 消費者余剰の算定

6,937円/人・回

■ 需要の推計

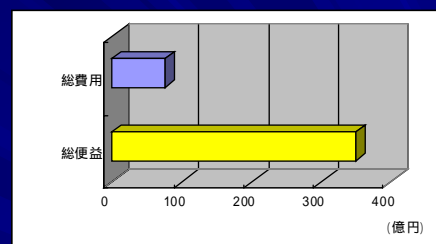
H19年利用者数 27,674人

■ 利用便益の算定

$6,937\text{円/人}\cdot\text{回} \times 27,674\text{人/年}$
 $= 1.9\text{億円/年}$

総費用 (C) 76億円

総便益 (B) 351億円



■ 費用便益比 (B / C) 4.6

【印刷様式5】 再々評価事業に関する調査					
番号	事業名	路線又は箇所名等	地区		
5	徳山湾海岸環境整備事業		徳山地区		
事業化年度	平成5年度	用地着手年度	—	工事着手年度	平成6年度
【再評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成14年度	供用開始年度	平成7年度	対応方針	継続
B/C	2.3	総費用	95億円	総便益	151億円
再評価時の委員会の意見及び資料の状況					
早期に効果が発揮できるよう、地元と調整を図りながら重点的な整備を行うこと。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定5年後の進捗状況					
	計	画	進捗状況	5年後の想定進捗状況	
全体事業費	78.0億円		18.4億円 (21.3%)	28.7億円 (36.8%)	
用地取得面積	—		—	—	
供用面積 (延長)	1.8km		0.2km (10.7%)	0.8km (44.4%)	
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成19年度	供用開始年度	平成7年度	対応方針	継続
B/C	4.6	総費用	76億円	総便益	351億円
現在の進捗状況					
	計	画	進捗状況	—	
全体事業費	78.0億円		20.4億円 (26.2%)		
用地取得面積	—		—		
供用面積 (延長)	1.8km		0.7km (38.9%)		
再評価後の経過及び処理状況	<p>- 再評価時の前年度からの事業費は、近年の財政状況の影響から予定した予算額を下回る結果となっている。</p> <p>- 第1期計画区間 (L=800m) は、交通、維持、人工漁具 (養魚) 等が構成し、現在は護岸背後の進歩道等の整備を進めており早期に完了させたい。</p>				

社会経済情勢等

当海岸は、高潮に対する海岸保全施設の整備が完了していないため、早急に整備を行う必要があること。

東京湾横断道路や東関東自動車道の整備により、ポテンシャルが一層向上しており、魅力あるリゾート地域を形成する必要があること。

対応方針（案）

当海岸は、高潮に対する海岸保全施設の整備が完了しておらず、高潮が発生した場合の被害が大きく早急な整備を要すること。

ちば2007アクションプランの「戦略プロジェクト2 観光立県千葉の実現」の中で、魅力ある海岸づくりとして当海岸の整備が位置づけられていること。

地元館山市から早期完成の強い要望があること。



継続